

広島大学キャンパスマスタープラン 2022

— ダイジェスト版 —



広島大学

I キャンパスマスタープラン 2022

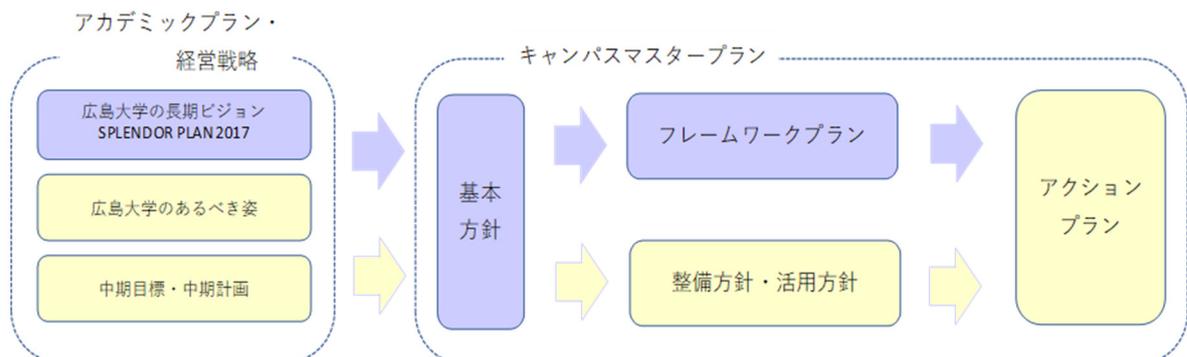
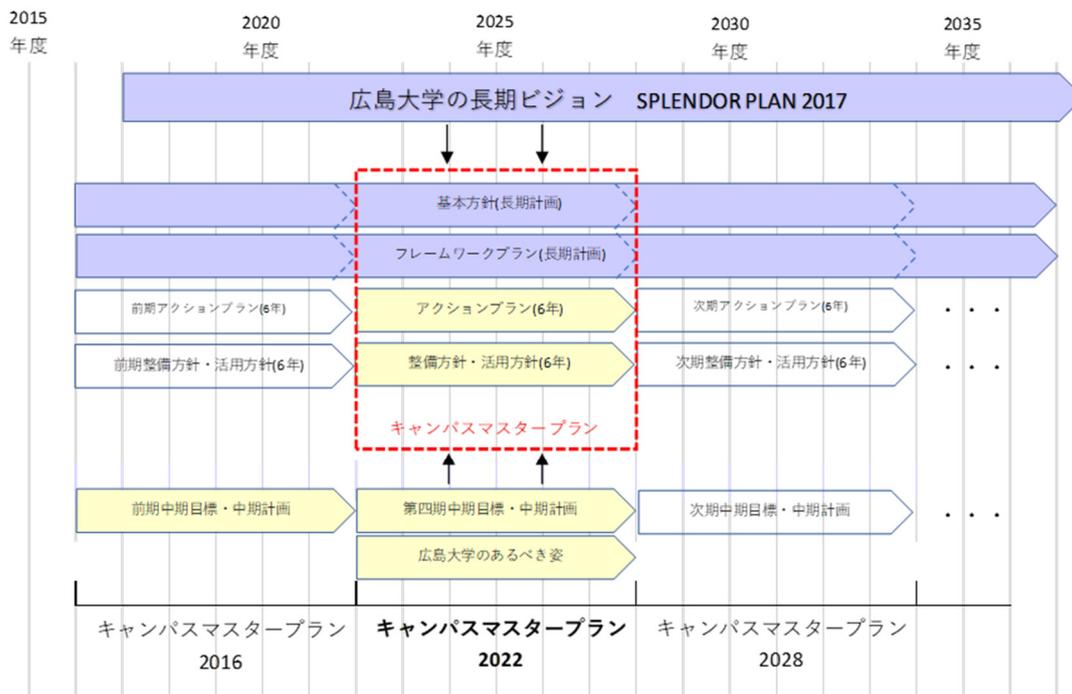
目的

大学は、国民から負託された資産であるキャンパスを最大限に活用し、教育研究の質の向上を図り、教育研究の成果をあげ社会貢献を実現していくことが求められている。キャンパスマスタープランは、大学のミッションやアカデミックプランを実現するため、学内外の関係者が共通認識するキャンパス空間の将来像に向け、継続的に実施される施設・環境整備と管理・運営の拠り所となる指針として策定する。

位置づけ・構成

キャンパスマスタープラン 2022 は、「広島大学の長期ビジョン SPLENDOR PLAN 2017」を踏まえ、キャンパスマスタープラン 2016 を点検・評価のうえ、中期目標・中期計画にリンクした形で作成する。構成としては SPLENDOR PLAN 2017 及び中期目標・中期計画を上位計画として、基本方針を策定し、次いで、キャンパスの整備方針や活用方針及びキャンパスの骨格を形成する計画のフレームワークプラン、実効性のある取り組みとしてアクションプランを策定する。

また、キャンパスマスタープラン 2022 の策定にあたっては、学生・教職員の協業による検討部会を立ち上げ、本学の構成員や近隣住民にも意見を聞きながら検討する。

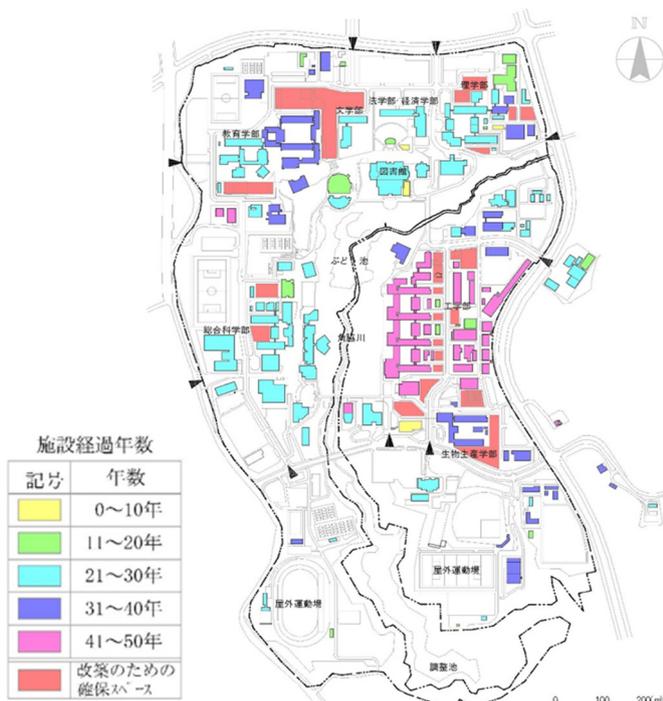


Ⅱ 現状と課題・アクションの検証

キャンパスの現状と課題

<東広島キャンパス>

東広島キャンパスは、西側のゆるやかな傾斜地に主要な施設群が立地するアカデミック地区、東側の南向き傾斜地を利用した農場地区、及び中央部の山林（保全緑地）ゾーンから構成される。アカデミック地区は、9学部3研究科の教育研究施設をはじめ、法人本部、共同利用施設、福利厚生施設、スポーツ施設等が立地する。山林ゾーンには、学生宿舎・教職員宿舎、附属幼稚園等が立地している。



アカデミック地区の施設の経年状況

○ 施設の整備時期・老朽度等

- ・統合移転により集中的に建設された施設のため、その多くが一斉に改修時期を迎える
- ・今後は計画的な施設整備への対応を検討するとともに、施設の維持管理のための安定した財源の確保が必要
- ・耐震補強は全て完了

○ 教育・研究環境

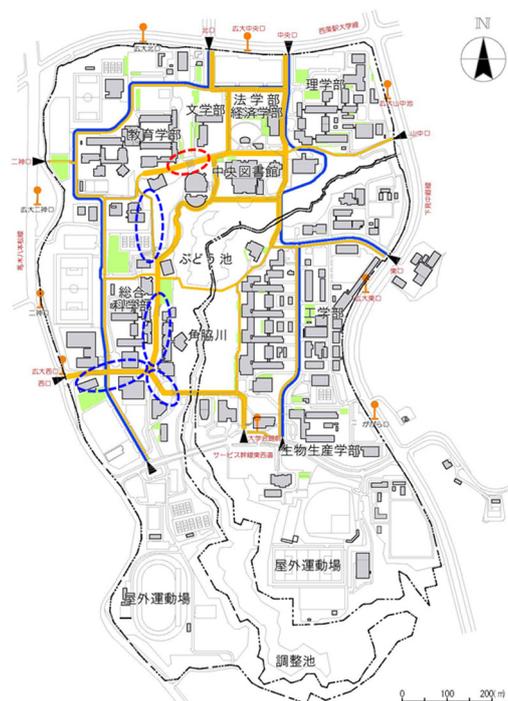
- ・大学院再編により、様々な分野の学生らの交流が求められているが、交流を促すためのスペース等が不足している
- ・LGBTQに対応したトイレや礼拝室等ダイバーシティに対応したスペースの確保
- ・研究スペース及び管理スペースの割合が不適合
- ・講義室の低い稼働率（平均 51%）
- ・学生スペースが不足

○ キャンパスの環境

- ・駐車場の利用状況に較差
- ・歩行者と自転車の動線が明解に分離されていないため、輻輳による事故等の危険性有り
- ・学内全体の駐輪可能台数は現状の利用台数を上回っているが、駐輪場の需要と供給のアンバランスが生じている
- ・幹線道路沿いの一部の歩道においては植栽木の根上がりにより路面が隆起し、安全性について問題となっている

○ ライフライン・エネルギー消費等

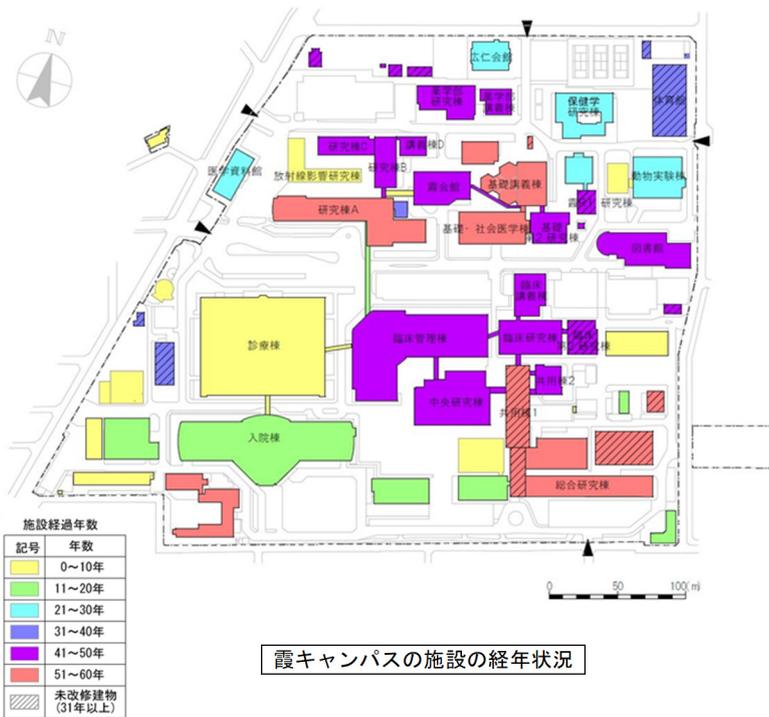
- ・省エネ法による削減目標を達成
- ・排水管等の幹線部分は未更新
- ・構内排水処理設備の経年劣化
- ・油焚きボイラーによるCO2排出が多い
- ・PPA事業により太陽光発電設備を整備予定
- ・断熱性能不足等によるエネルギー効率の低下



<霞キャンパス>

霞キャンパスは、戦前に広島陸軍兵器補給廠として使用されていた敷地へ、広島県立医科大学が広島大学医学部に移管・併合された後の昭和32年に呉市から移転している。

霞キャンパスの施設配置は、大きくは病院ゾーン（入院棟、診療棟及び関連施設）及び教育・研究ゾーン（講義棟、研究棟及び関連施設）から構成されている。メインアクセスの入口付近には入院棟、診療棟が整備されている。



○ 施設の整備時期・老朽度等

- ・教育・研究ゾーンは、教育・研究関係施設が高密に立地した建て詰まり状態
- ・未改修建物については老朽化が著しく、効率的な改修整備を行っていく必要がある
- ・耐震補強は全て完了

○ 教育・研究環境

- ・大学院再編により、様々な分野の学生らの交流が求められているが、交流を促すためのスペース等が不足している
- ・研究スペース及び管理スペースの割合が不適合
- ・講義室の低い稼働率（平均37%）
- ・学生スペース（研究・交流用スペース、憩いのスペース）が不足

○ キャンパス環境

- ・駐車場及び駐輪場が分散配置され、構内の自動車通行量が多くなっている
- ・建物の分散配置により歩行者や自転車との動線が交錯し危険
- ・教育研究ゾーンの構内サインは未整備

○ ライフライン・エネルギー消費等

- ・市水及び排水管等が45年以上経過している部分があり、漏水事故の発生が懸念される
- ・省エネ法による削減目標を達成
- ・ESCO事業を実施しており、削減保障量に対して100%以上を達成している
- ・断熱性能不足等によるエネルギー効率の低下



＜東千田キャンパス＞

東千田キャンパスは、元来本部キャンパスであったが、東広島市への統合移転に伴い現在の敷地を除き、都市公園、マンション等として再開発された。また、跡地の一部は「ひろしまの『知の拠点』再生プロジェクト」として事業化され、学生向け居住施設、高層マンション、福祉施設、スポーツ施設、医療施設等からなる複合開発が進められている。



東千田キャンパスの施設の経年状況

○ 施設の整備時期・老朽度等

- ・ 狭小な敷地に対する効果的な建設計画が必要
- ・ 総合校舎B及び総合校舎Cは今後 10 年内外のうちには改築整備が必要
- ・ 令和4年度に「法曹養成を核とした人文社会科学系の新たな拠点」として新棟を建設し、令和5年度から運用を開始

○ 教育・研究環境

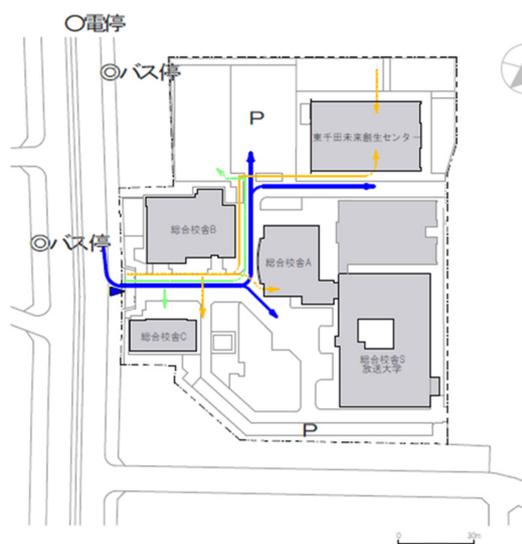
- ・ 講義室稼働率（昼間平均 24%、夜間平均 52%）
- ・ 学生スペース（研究・交流用スペース）が不足
- ・ 「ひろしまの『知の拠点』再生プロジェクト」により、敷地境界への工作物（塀等）の設置が抑制されているため、不審者の侵入や学内施設等の不法使用に対する配慮が必要

○ キャンパスの環境

- ・ キャンパスへの進入口が1か所であるため、構内で自動車・自転車・歩行者の動線が交錯

○ ライフライン・エネルギー消費等

- ・ 省エネ法による削減目標を達成
- ・ 東千田キャンパスの電力及び東千田未来創生センターのガス空調設備のガスをスマートコミュニティ事業（「ひろしまの『知の拠点』再生プロジェクト」の施設を対象とした、省エネ・CO2削減に寄与するための、エネルギー供給サービス）から受給し、省エネ・CO2削減を推進している。
- ・ 断熱性能不足等によるエネルギー効率の低下



東千田キャンパスの駐車場・交通動線

キャンパスマスタープラン 2016 におけるアクションプランの検証

<東広島キャンパス>

○ アクションプラン

キャンパスの目標	達成度	備考
1. 新しい時代を拓く知的創造を生み出すキャンパス	100%	計画 18、実施 18
2. 若々しい活力と豊かな人間性を育むキャンパス	100%	計画 2、実施 2
3. 国際社会・地域社会と共生し貢献する開かれたキャンパス	93%	計画 14、実施 13
4. 豊かな環境を活用・創造した美しいキャンパス	100%	計画 3、実施 3
5. 社会を先導する「サステイナブル・キャンパス」	100%	計画 2、実施 2
達成度 計	97%	計画 39、実施 38

<霞キャンパス>

○ アクションプラン

キャンパスの目標	達成度	備考
1. 新しい時代を拓く知的創造を生み出すキャンパス	90%	計画 10、実施 9
2. 若々しい活力と豊かな人間性を育むキャンパス	100%	計画 1、実施 1
3. 国際社会・地域社会と共生し貢献する開かれたキャンパス	100%	計画 10、実施 10
4. 豊かな環境を活用・創造した美しいキャンパス	100%	計画 3、実施 3
5. 社会を先導する「サステイナブル・キャンパス」	100%	計画 3、実施 3
達成度 計	96%	計画 27、実施 26

<東千田キャンパス>

○ アクションプラン

キャンパスの目標	達成度	備考
1. 新しい時代を拓く知的創造を生み出すキャンパス	86%	計画 7、実施 6
2. 若々しい活力と豊かな人間性を育むキャンパス	100%	計画 1、実施 1
3. 国際社会・地域社会と共生し貢献する開かれたキャンパス	83%	計画 6、実施 5
4. 豊かな環境を活用・創造した美しいキャンパス	100%	計画 1、実施 1
5. 社会を先導する「サステイナブル・キャンパス」	100%	計画 2、実施 2
達成度 計	88%	計画 17、実施 15

キャンパスマスタープラン 2016 アクションプランの達成度 95% (計画 83、実施 79)

キャンパス整備の基本方針及び整備方針

「広島大学キャンパスマスタープラン 2022」において、中期目標・中期計画を基とし、各キャンパスの長期的な将来像を基本としつつ、大学を取り巻く状況の変化や本学のキャンパス整備の進展や課題を踏まえ、キャンパス整備の基本方針を3つ設定し、それぞれの基本方針を基に整備方針を以下のとおり挙げる。

1 多様化・グローバル化に対応し、イノベーションを生み出す共創の場となるキャンパス

- ・ 教育研究活動や地域・社会との共創において多様な人材の能力を最大限発揮できるよう、バリアフリーなどダイバーシティに配慮した施設整備を行う。
- ・ 「共創拠点」として、キャンパス全体を「イノベーション・コモンズ化」することにより、教育研究の高度化・多様化・国際化を推進し、より多くのイノベーションを継続的に生み出す環境づくりを行う。
- ・ 時間や場所に制約されることなく教育研究を実施することができるよう、ICT 環境等の情報インフラの整備を行う。
- ・ Society5.0 等に向けた教育研究の高度化・多様化に対応した施設整備を行う。
- ・ 世界中から人を呼び込む重要な手段として、世界水準の教育研究環境・国際交流機能の整備を行う。

2 持続可能な社会に貢献できるキャンパス

- ・ 持続可能な大学であるために多様な財源の確保など、地域との連携をより一層推進しながら地域創生を引き起こし、日本の活性化を引き起こす施設マネジメントを行う。
- ・ 可能な限り既に保有している施設を有効活用することとし、スペースの適切な配分や「戦略的リノベーション」を中心とした老朽化改善整備による長寿命化を図る。
- ・ カーボンニュートラルに向けて、施設のトリアージによる保有面積の削減や大規模改修時における複層ガラスや省エネ機器等の積極的導入による、キャンパスにおける消費エネルギーの抑制や、施設の屋上等の余剰スペースを再生可能エネルギーの発電スペースとして貸し出す等のエネルギーマネジメントを行う。また、徒歩や自転車による移動の推進等を通して、交通による CO2 排出量を抑制する。

3 自然豊かな環境で新たな交流が生まれるキャンパス

- ・ 様々な人々が交わることでイノベーションが創出されることから、屋内・屋外を問わず、キャンパス全体で交流が生まれるよう施設整備を行う。
- ・ ネットワークの構築・活用への対応も含め、災害時においてに防災拠点となるようライフライン等を含めた施設の強靱化を行う。
- ・ 学生や教職員のみならず地域や産業界など様々な人々がキャンパスに足を運びたくなるよう、屋内・屋外を含め魅力的な空間を整備する。
- ・ 多様な人々が安心して過ごせるよう防犯等安全面に配慮したキャンパス整備を行う。

大学施設は教育研究活動を支える基盤であり、大学にとって重要な資産であることから、全学的視点からの施設マネジメントを推進し、計画的な施設整備と既存施設の有効活用を進める。

1. スペースの有効活用

- ・ 施設の利用状況を踏まえ、スペースの配置の適正化と集約化により利用効率を向上
- ・ 部局運用の講義室を共同利用し、講義室の重点的改善整備を図る。
- ・ 居室の大部屋化やコミュニケーションスペースの拡充等、イノベーション・コモンズや分野横断型の教育を意識した最適な教育環境を学生に提供する。

2. 全学スペースの確保

- ・ 「広島大学面積基準」及び令和3年度構築のスペースの見える化システムを活用し、スペース配分のアンバランスを解消するとともに、学生スペースと若手研究者の研究スペースを確保
- ・ 大規模改修に併せ、弾力的活用スペースを確保・充実

3. 施設運営費の適正化

- ・ 施設運用計画及び施設修繕計画を策定し、実効性のある施設管理と安定財源の確保を実施

4. 施設管理データの一元化

- ・ スペースの有効活用、スペースチャージ制の導入、エネルギー使用量管理等の目標を定め、費用対効果を考慮しつつ施設管理データの一元化を実施

IV フレームワークプラン

<東広島キャンパス>

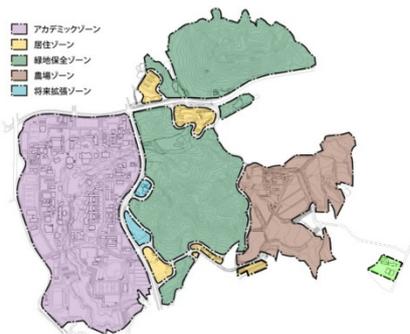
○ 基本方針

東広島キャンパスにおいては、恵まれた環境を魅力資源として十分に活用しつつ、教育・研究のニーズに的確に対応し、良好な教育・研究環境を形成していくことを基本的な方針とする。また、学部単位で配置された空間構成に一つのキャンパスとしての一体感を持たせ、メインキャンパスにふさわしい魅力と風格を生み出すとともに、学生の出会い・交流により新たな知的創造が生み出されるキャンパスを目指す。

○ 土地利用のゾーニング

(アカデミック地区)

- ・新たな機能や共用施設・福利厚生施設等の立地を計画的に誘導し、秩序あるキャンパスの利用を実現
- ・保存緑地を有効活用したキャンパスアメニティの形成に配慮し、適切な建物配置及び規模（高層化，集約化）による外部空間との調和を確保・維持



東広島キャンパス全体のゾーニング図

土地利用ゾーニング	
記号	名称
■	学部・研究科ゾーン
■	研究所・研究センターゾーン
■	共通施設ゾーン
■	運動施設・駐車場ゾーン
■	保全緑地ゾーン

建物等用途	
記号	名称
■	学部・研究科校舎、実験施設
■	学内共同教育研究施設等
■	学内共用施設（文化施設、福利厚生施設）
■	学内共用施設（運動施設、エネセン等）
P, P	駐車場、駐輪場



アカデミック地区のゾーニング図



アカデミック地区の外部空間・ネットワーク

○ 空間構成とネットワーク

- ・大学正門として「中央口」を明確にし、円滑にキャンパス内に誘導
- ・ブドウ池や周辺緑地を中核とした新たな施設の配置、歩行者ルートや外部空間の整備（キャンパスグリーン）
- ・中央緑地（キャンパスグリーン）を囲むゾーンの活動の中心として、個性ある「キャンパスコモン」の形成
- ・地域のビジョンに対応した連携拠点の位置付けと強化。
- ・主要な溜まり空間（パブリックスペース）の環境整備と質的向上

○ 交通処理

- ・動線の改善並びに歩行者エリアの形成及び自転車レーンの整備
- ・2030年度までの実現を目標としているスマートキャンパス化のために自動運転シャトル、電気自動車のライドシェアリングサービス等の次世代モビリティの普及を推進
- ・徒歩や自転車による移動の推進
自転車動線と歩行者動線の輻輳による接触事故の危険性を解消し、歩車分離による円滑で安全な動線を確保するため、自転車レーンを整備

- ・歩行者エリア(自転車は押して歩くことができる)の形成

キャンパスのイノベーションコモンズ化を目指し、安全・安心かつ快適な教育研究環境を整備するため、ローカル 5G 等のスマートキャンパス化にも取り組むとともに、歩きながら、もしくはベンチに座りながら、様々な分野の教職員・学生や市民が語らえ、共創の場となるような歩行者エリア(自転車を押して歩くことはできる)を形成

- ・ユニバーサルデザインの理念に基づき歩行者の円滑な通行を確保
- ・サービス幹線道路内エリアの駐車場を極小化し、不必要な自動車の歩行者・自転車エリア内の通行を抑制
- ・駐車場の効率的な配置の推進
- ・「広島大学サインガイドライン(東広島キャンパス編)」に基づき屋外サインを充実

○ 緑地・オープンスペース

- ・河川・水辺と周辺樹木地を適切に管理
- ・実証実験(ベンチを段階的に増やすことによる利用者変化の推移調査等)を用いた効率的な憩いのスペースの拡充
- ・街路樹の整備・管理及び空間における個性の演出
- ・被ばく樹木の生残や成長がさまたげられることのない整備計画

○ 建物・道路整備

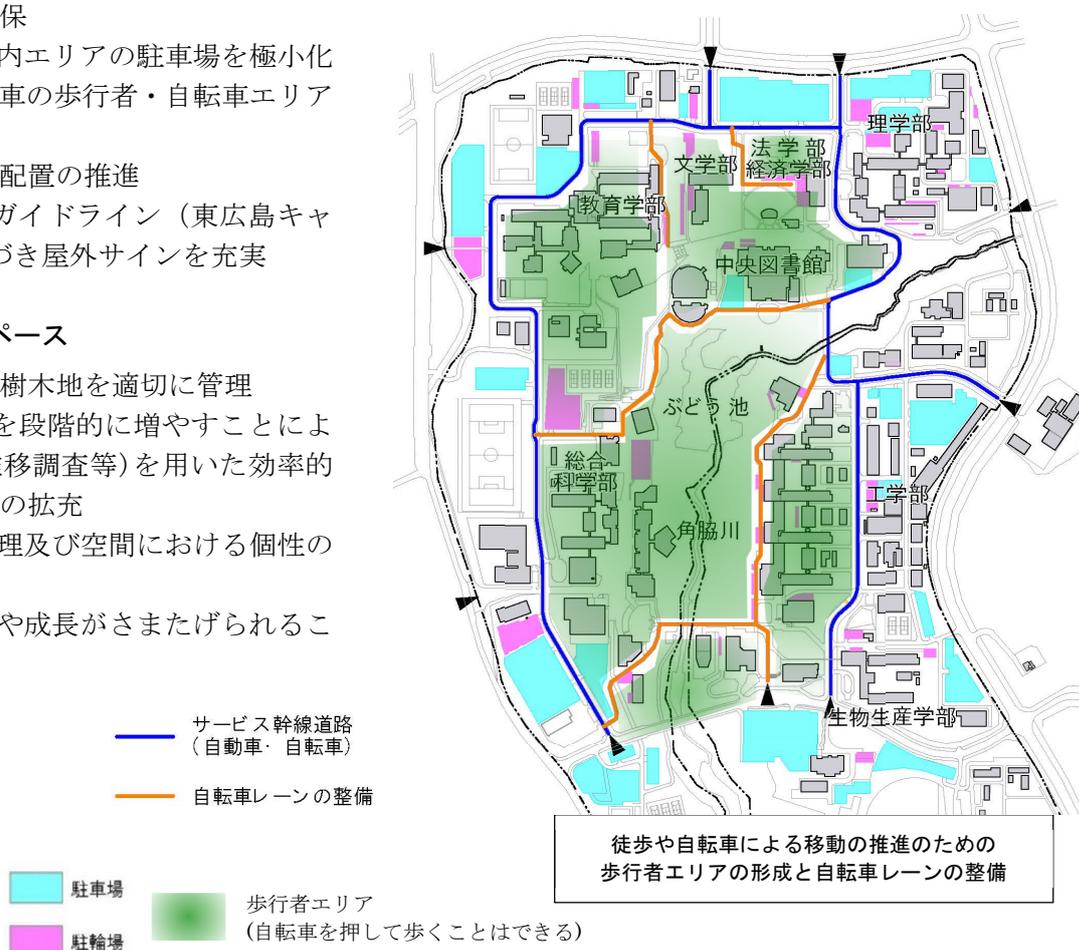
- ・建物デザイン、外壁色については、整備当初の基本方針を継承
- ・外壁色については、整備場所により周辺環境との調和を考慮
- ・道路は年次計画により補修整備

○ ライフライン更新整備

- ・ライフラインの更新時には、適切なルートへの見直しや改善整備について十分に検討
- ・将来の拡張、用途変更等の変化に対応できる柔軟性のあるシステムを構築
- ・エネルギー供給設備の見直し

○ サステイナブル・キャンパスの推進

- ・LED照明、高効率空調機の採用
- ・大規模太陽光発電設備、蓄電池設備、電力見える化の充実等により、省エネルギー・CO2の効果的・効率的な削減
- ・雨水の給水利用について検討



<霞キャンパス>

○ 基本方針

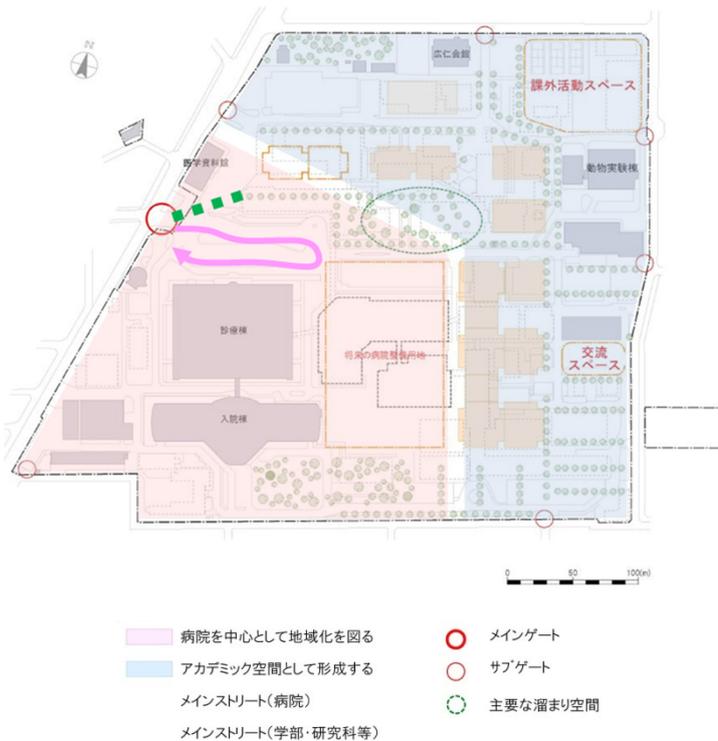
霞キャンパスにおいては、限られた敷地が高密度に利用されている状況を鑑み、計画的・段階的なキャンパスの再整備により、逼迫している教育・研究環境の整備・改善を進めるとともに、教育・研究活動と医療活動のエリアを明確化し、併せて利用者がゆとりや安らぎを感じることができる環境を調べていくことを基本的な方針とする。

○ 土地利用のゾーニング

- ・教育・研究ゾーンは、研究棟、講義棟及び共同利用研究施設を配置し効率的な利用を図る
- ・診療ゾーンは、隣接する研究ゾーンと連携により高度先進医療を推進
- ・交流ゾーンは、地域社会との交流・連携を図る



霞キャンパスの土地利用のゾーニング



- 病院を中心として地域化を図る
- アカデミック空間として形成する
- メインストリート(病院)
- メインストリート(学部・研究科等)
- メインゲート
- サブゲート
- 主要な溜まり空間

霞キャンパスの外部空間・ネットワーク

○ 空間構成とネットワーク

- ・病院周辺は外来者の利用が多いため、地域との一体化に配慮
- ・学生の集う活動的な空間を設ける
- ・「知の拠点」の核を中心とした施設配置
- ・地域との連携拠点を設け、活性化
- ・霞会館を中心としたパブリックスペースの整備
- ・建物周辺にコミュニティスペースの配置

○ 交通処理

- ・患者と学生・教職員の動線を分離
- ・キャンパス中央部への自動車・自転車の進入を制限
- ・自動車・自転車乗入禁止エリアを設け、歩行者動線（車いす利用者・視覚障害者等を含む）を確保
- ・駐車場・駐輪場の利用状況に応じ、運用の見直し
- ・震再開発計画に基づき、「広島大学サイジングガイドライン(霞キャンパス編)」の作成検討

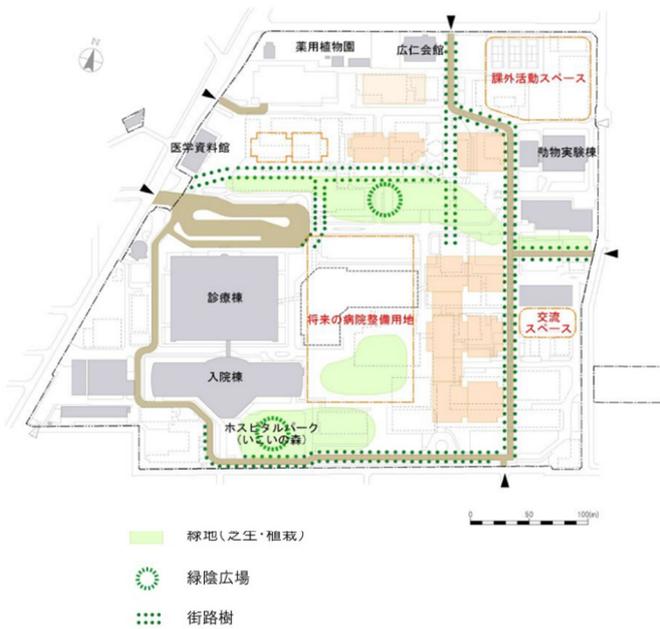


- | | | |
|---|--|--|
| P 駐車・駐輪場(教職員他) | 自動車動線(教職員他) | 自動車入構ゲート |
| P 駐車・駐輪場(患者) | 自動車動線(患者) | 歩行者・自転車入構ゲート |
| | 歩行者動線(学生・教職員) | 自動車・自転車乗入禁止エリア |
| | 活動の軸 | |

○ 緑地・オープンスペース

- ・パブリックスペースを整備することに伴い、新たな緑地を整備
- ・メインストリートに街路樹の整備
- ・建物及び駐車場の集約により、運動・課外活動スペースを拡充

霞キャンパスの動線計画



- 緑地(芝・植栽)
- 緑陰広場
- 街路樹

霞キャンパスの緑地・オープンスペース

○ 建物・道路整備

- ・外壁色を統一するとともに、整備場所により周辺環境との調和を考慮
- ・道路等については、点検等により状況を把握し、適時適切に補修

○ ライフライン更新整備

- ・将来の建物レイアウトに配慮し、ルートの見直しや点検結果等を踏まえた更新計画を設定
- ・将来の拡張、用途変更等の変化に対応できる柔軟性のあるシステムを構築
- ・エネルギー供給設備の見直し

○ サステナブル・キャンパスの推進

- ・LED照明、高効率空調機の採用
- ・再生可能エネルギーを活用した太陽光発電設備、蓄電池設備、電力見える化の充実等により、省エネルギー・CO2の効果的・効果的な削減

○ 病院の将来計画

- ・平成14年完成の入院棟及び平成25年完成の診療棟は免震建物であり、今後大規模改修を経て、その後改築に向けた整備計画を策定する必要がある

<東千田キャンパス>

○ 基本方針

東千田キャンパスにおいては、既存の校舎に加え、新たに整備された「東千田未来創生センター」を活用した教育・研究活動を充実させるとともに、隣接する東千田公園や各プロジェクトと一体となって地域の活力の再生に寄与するキャンパスを目指す。

○ キャンパス敷地の利用計画

- ・将来的には建物の高層化を基本とした整備を推進
- ・隣接する東千田公園や「ひろしまの『知の拠点』再生プロジェクト」との連携を考慮した利用計画を策定
- ・総合校舎B及び総合校舎Cは、改築計画（将来構想建物）を検討
- ・改築又は増築用のリザーブスペースを確保し、円滑な移行が可能となるよう検討

○ 交通処理

- ・歩行者の安全対策を最優先とし、構内動線の明確化等により危険箇所を改善
- ・将来の改築整備に合わせ、自動車、自転車及び歩行者の各動線の交錯を解消し安全性を確保

○ 緑地・オープンスペース

- ・東千田公園との一体的利用を考慮した環境の維持管理
- ・外部からの不審者の侵入等に配慮した安全管理

○ 建物・道路整備

- ・点検・調査による計画的な改善整備

○ ライフライン更新整備

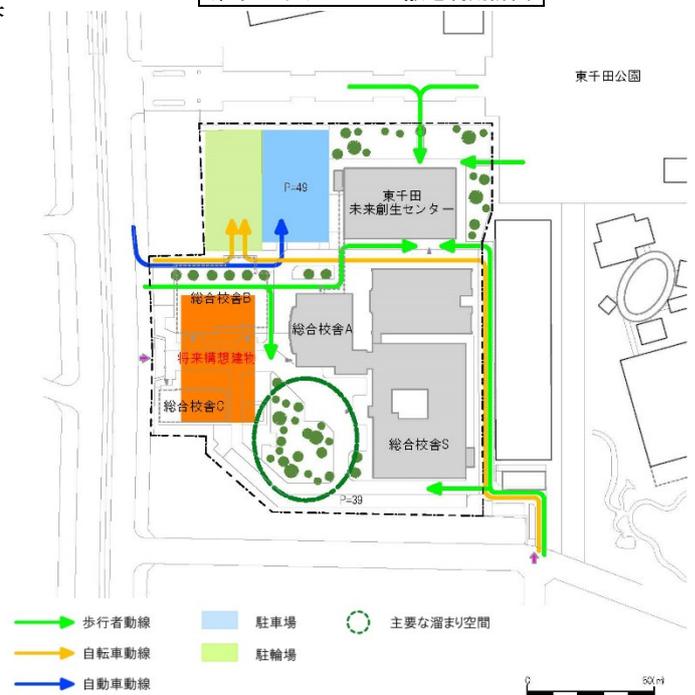
- ・幹線部分を含め建物改修時等に計画的に更新

○ サスティナブル・キャンパスの推進

- ・LED照明、高効率空調機の採用
- ・スマートコミュニティ事業による一括受電、ガス空調設備等を継続し、省エネルギー・CO2の削減を推進



東千田キャンパスの敷地利用計画



東千田キャンパスの動線計画

V キャンパス・アクションプラン

東広島キャンパス・アクションプラン

基本方針	整備方針	施設整備計画
<p>1. 多様化・グローバル化に対応しイノベーションを生み出す共創の場となるキャンパス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究活動や地域・社会との共創において多様な人材の能力を最大限発揮できるよう、バリアフリー等ダイバーシティに配慮した施設整備を行う。 ・「共創拠点」として、キャンパス全体を「イノベーション・コモンズ化」することにより、教育研究の高度化・多様化・国際化を推進し、より多くのイノベーションを継続的に生み出す環境づくりを行う。 ・時間や場所に制約されることなく教育研究を実施することができるよう、ICT環境などの情報インフラの整備を行う。 ・Society5.0等に向けた教育研究の高度化・多様化に対応した施設整備を行う。 ・世界中から人を呼び込む重要な手段として、世界水準の教育研究環境・国際交流機能の整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育・研究施設の再生 老朽施設を順次改善整備(全面・部分)既存施設の有効活用に向けた整備 ・新たな教育研究環境の整備 教育研究スペースの整備・充足 プロジェクト研究スペースの充実 IT機器利活用への対応 ・学生等のニーズに対応した教育・研究環境の整備 学習スペースの整備 ・交通施設の改善 動線の改善 駐車場・駐輪場の適正配置 外部からのアクセスに対する利便性確保 歩行者と自転車の円滑な通行確保 道路の改修 屋外セキュリティの確保 ・ユニバーサルデザイン化の推進 ・国際化に対応した環境整備 留学生・研究者の生活環境の充実 ・産学官連携施設の整備 ・キャンパスセントラルスの整備
<p>2. 自然豊かな環境で新たな交流が生まれるキャンパス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々が交わることでイノベーションが創出されることから、屋内・屋外を問わず、キャンパス全体で交流が生まれるよう施設整備を行う。 ・ネットワークの構築・活用への対応も含め、災害時において防災拠点となるよう、ライフライン等を含めた施設の強靱化を行う。 ・学生や教職員のみならず地域や産業界等様々な人々がキャンパスに足を運びたいくなるよう、屋内・屋外を含め魅力的な空間を整備する。 ・多様な人々が安心して過ごせるよう防犯等安全面に配慮したキャンパス整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生交流の場の整備 ・学生生活環境の改善 ・自然環境の保全・活用 保安林地的管理と人工植栽管理 緑陰広場の整備
<p>3. 持続可能な社会に貢献できるキャンパス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な大学であるために多様な財源の確保等、地域との連携をより一層推進しながら地域創生を引き起こし、日本の活性化を引き起こす施設マネジメントを行う。 ・可能な限り既に保有している施設を有効活用することとし、スペースの適切な配分や「戦略的リノベーション」を中心とした老朽改善整備による長寿命化を図る。 ・カーボンニュートラルに向けて、施設のトリアージによる保有面積の削減や大規模改修時における複層ガラスや省エネ機器等の積極的導入による、キャンパスにおける消費エネルギーの抑制や、施設の屋上等の余剰スペースを再生可能エネルギーの発電スペースとして貸し出す等のエネルギーマネジメントを行う。また、徒歩や自転車による移動の推進等を通して、交通によるCO2排出量を抑制する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の削減 省エネ型機器への更新 再生可能エネルギー利用機器の導入
<p>上記以外にキャンパス整備の目標とすべき事項</p>		

単位：万円

 概算要求対象事項

第四期アクションプラン案（令和4年～9年度）	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	備考
<ul style="list-style-type: none"> 生物生産学部研究棟の機能改善 理学部研究棟の機能改善 工学部研究棟の機能改善 教育学部研究棟の機能改善 工学部実験棟等の性能維持改修（3,990㎡） 	5000	5000	5000	5000	5000	5000	ライフライン（排水管）の更新 76,600万円×2期 研究棟C総額 84,844万円 研究棟A 53,956万円×2期
<ul style="list-style-type: none"> 実験排水処理設備の更新 ライフライン（給水等）の更新 							41,281万円/期×5 33,098万円/期×4
<ul style="list-style-type: none"> 大規模改修等に伴う弾力的活用スペースの確保（2,072㎡）（生物生産学部の他、理学部、教育学部にも取り組むため、学部名を削除） 講義室の共有化による全学共用スペースへの転用 空き教室の見える化 教員退去後の空きスペースの有効活用 法学部研究棟の跡スペースの有効活用 プロジェクト研究スペースの充実に向けた財源確保のための全学スペースチャージ制度の検討 							
<ul style="list-style-type: none"> 駐車場の運用見直し 駐輪場の整備（上屋1,000㎡） サービス幹線道路等舗装の改善 交通結節点整備後の動線の整備 歩行者と自転車の動線分離（歩行者エリアの形成と自転車レーンの整備） 道路舗装等の改善 	900	900	900	900			駐車料金による運営費（500万円） R3年度前倒し実施（学生交流の場の整備と併せて約2,000万円） 既存支柱玉替え200基 ×40万円 =8,000万円・ 新規外灯96基 ×80万円 =7,680万円 総額 19,680万円
<ul style="list-style-type: none"> ・外灯整備（296基） 	1400	1400	1400	1400	1400	1400	
<ul style="list-style-type: none"> ・LGBTQに対応した「みんなのトイレ」の整備（60箇所） ・トイレの改修（和式便器⇒洋式便器105箇所） ・スロープ、自動扉の設置 ・屋外通路の段差等改善 ・屋外サイン計画の見直しを検討 ・建物ナンバリングのサイン整備（110箇所） 	300	300	300	300	300	300	1年に10か所現状の多目的トイレにフイティングボードとオストメイトを設置すると仮定 既存トイレの改修：20万円×9か所 新規：120万円 和洋リモデル工法 60万円 105箇所 =6,300万円 簡易的スロープ：150万円 複雑なスロープ：250万円 40万円/5m 過去の全サイン設置費 全800万円
<ul style="list-style-type: none"> ・インキュベーション施設の充実 ・交通結節点整備に伴う周辺整備 							
<ul style="list-style-type: none"> ・大規模改修やASU校舎整備等に伴うパブリックスペースの整備 							R3年度前倒し実施（動線の改善と併せて約2,000万円）
<ul style="list-style-type: none"> ・居住環境の向上 							
<ul style="list-style-type: none"> ・ぶどう池周辺の整備 ・アカデミック地区の植栽の管理 ・既存緑地の維持管理 	700	700	700	700	700	700	2020年度実績
<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ手法の導入（複層ガラス、外壁断熱材、遮熱塗装等） ・LED照明器具・高効率空調機への更新（照明2000台、空調360台） ・太陽光発電設備の導入 ・油焚き機器の廃止の検討（個別式空調への転換） ・井戸水の活用の検討 	2600	2600	2600	2600	2600	2600	LED照明2,000灯 ×3.2万円 =6400万円→1100万円/年・空調60台/年 ×25万円 =1,500万円/年
							13,300万円/年

霞キャンパス・アクションプラン

基本方針	整備方針	施設整備計画
<p>1. 多様化・グローバル化に対応しイノベーションを生み出す共創の場となるキャンパス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究活動や地域・社会との共創において多様な人材の能力を最大限発揮できるよう、バリアフリー等ダイバーシティに配慮した施設整備を行う。 ・「共創拠点」として、キャンパス全体を「イノベーション・コモンス化」することにより、教育研究の高度化・多様化・国際化を推進し、より多くのイノベーションを継続的に生み出す環境づくりを行う。 ・時間や場所に制約されることなく教育研究を実施することができるよう、ICT環境などの情報インフラの整備を行う。 ・Society5.0等に向けた教育研究の高度化・多様化に対応した施設整備を行う。 ・世界中から人を呼び込む重要な手段として、世界水準の教育研究環境・国際交流機能の整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育・研究施設の再生 老朽施設を順次改善整備(全面・部分)既存施設の有効活用に向けた整備 ・新たな教育研究環境の整備 ・学生等のニーズに対応した教育・研究環境の整備 学習支援スペースの整備 ・高度医療に対応した病院施設の整備 ・ユニバーサルデザイン化の推進 ・国際化に対応した環境整備 ・産学官連携施設の整備 ・病院周辺の屋外環境整備 ・交通施設の改善 動線の改善 駐車場・駐輪場の適正配置 道路の改修 屋外セキュリティの確保 ・医療施設の改修 既設入院棟・診療棟の改修
<p>2. 自然豊かな環境で新たな交流が生まれるキャンパス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々が交わることでイノベーションが創出されることから、屋内・屋外を問わず、キャンパス全体で交流が生まれるよう施設整備を行う。 ・ネットワークの構築・活用への対応も含め、災害時において防災拠点となるよう、ライフライン等を含めた施設の強靱化を行う。 ・学生や教職員のみならず地域や産業界等様々な人々がキャンパスに足を運びたいくなるよう、屋内・屋外を含め魅力的な空間を整備する。 ・多様な人々が安心して過ごせるよう防犯等安全面に配慮したキャンパス整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生スペースの確保 ・学生生活環境の改善 ・緑地・広場の整備 新たな緑地広場の整備 街路樹の整備
<p>3. 持続可能な社会に貢献できるキャンパス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な大学であるために多様な財源の確保等、地域との連携をより一層推進しながら地域創生を引き起こし、日本の活性化を引き起こす施設マネジメントを行う。 ・可能な限り既に保有している施設を有効活用することとし、スペースの適切な配分や「戦略的リノベーション」を中心とした老朽改善整備による長寿命化を図る。 ・カーボンニュートラルに向けて、施設のトリアージによる保有面積の削減や大規模改修時における複層ガラスや省エネ機器等の積極的導入による、キャンパスにおける消費エネルギーの抑制や、施設の屋上等の余剰スペースを再生可能エネルギーの発電スペースとして貸し出す等のエネルギーマネジメントを行う。また、徒歩や自転車による移動の推進等を通して、交通によるCO2排出量を抑制する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の削減 省エネ型機器への更新 再生可能エネルギー利用機器の導入
<p>上記以外にキャンパス整備の目標とすべき事項</p>		

単位：万円

概算要求対象事項

第四期アクションプラン案（令和4年～9年度）	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	備考
<ul style="list-style-type: none"> 保健学科研究棟等の性能維持改修 ライフライン（給水、排水等）の更新 施設のトリアージにより不要になった老朽建物の取壊し（775㎡） 点検結果等を踏まえた動物実験棟エアハンドリングユニットの更新 							44,417万円×2期 26,667万円
<ul style="list-style-type: none"> 教養教育講義室及びプロジェクト研究スペースの整備 空き教室の見える化 RI-A棟の跡スペース活用に伴う弾力的活用スペースの確保（1,426㎡） プロジェクト研究スペースの充実に向けた財源確保のための全学スペースチャージ制度の検討 							中央機械棟取壊し+新講義棟 134,000万円
<ul style="list-style-type: none"> LGBTQに対応した「みんなのトイレ」の整備（9箇所） トイレの改修（和式便器⇒洋式便器10箇所） スロープ、自動扉の設置 歩道の整備 屋外サインの見直し・整備 	40	160	40	160	40	160	1年に2か所現状の多目的トイレにフィッティングボードとオストメイトを設置、2年に1か所新設すると仮定 リモデル60万円×10→600万円 1か所当たりの単価 過去の全サイン設置費
<ul style="list-style-type: none"> 診療棟屋上庭園及び入院棟南側憩いの森の維持管理 	400	400	400	400	400	400	
<ul style="list-style-type: none"> 交通施設（動線・駐輪場等）の整備 中央機械棟等の老朽化建物の取り壊し及び駐車場の整備 自転車利用者の管理方法の見直し及び不当駐輪の取締り 道路舗装等の改善 							
<ul style="list-style-type: none"> 教養教育講義室の整備に伴い学生スペースを整備 							
<ul style="list-style-type: none"> 屋外パブリックスペースの整備 建物周辺の緑地の整備 既存緑地の維持管理 	100	100	100	100	100	100	2020年度実績 2020年度実績
<ul style="list-style-type: none"> LED照明器具・高効率空調機への更新（照明748台、空調90台） 	800	800	800	800	800	800	LED照明 748灯 ×3.2万円 =2,393.6万円→400万円/年 空調15台/年 ×25万円 =375万円/年
							1600万円/年

東千田キャンパス・アクションプラン

基本方針	整備方針	施設整備計画
1. 多様化・グローバル化に対応しイノベーションを生み出す共創の場となるキャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究活動や地域・社会との共創において多様な人材の能力を最大限発揮できるよう、バリアフリー等ダイバーシティに配慮した施設整備を行う。 ・「共創拠点」として、キャンパス全体を「イノベーション・コモンズ化」することにより、教育研究の高度化・多様化・国際化を推進し、より多くのイノベーションを継続的に生み出す環境づくりを行う。 ・時間や場所に制約されることなく教育研究を実施することができるよう、ICT環境などの情報インフラの整備を行う。 ・Society5.0等に向けた教育研究の高度化・多様化に対応した施設整備を行う。 ・世界中から人を呼び込む重要な手段として、世界水準の教育研究環境・国際交流機能の整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育・研究施設の再生 老朽施設を順次改善整備（全面・部分改修） 既存施設の有効活用に向けた整備 ・新たな教育研究環境の整備 IT機器利活用への対応 ・学生等のニーズに対応した教育・研究環境の整備 学習支援スペースの整備 ・ユニバーサルデザイン化の推進 ・国際化に対応した環境整備 ・キャンパスエントランスの整備 ・「知の拠点」再生プロジェクトとの連携 ・交通施設の改善 動線の改善 駐車場・駐輪場の適正配置 道路の改修
2. 自然豊かな環境で新たな交流が生まれるキャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々が交わることでイノベーションが創出されることから、屋内・屋外を問わず、キャンパス全体で交流が生まれるよう施設整備を行う。 ・ネットワークの構築・活用への対応も含め、災害時において防災拠点となるよう、ライフライン等を含めた施設の強靱化を行う。 ・学生や教職員のみならず地域や産業界等様々な人々がキャンパスに足を運びたいくなるよう、屋内・屋外を含め魅力的な空間を整備する。 ・多様な人々が安心して過ごせるよう防犯等安全面に配慮したキャンパス整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生交流の場の整備 ・緑地・広場の整備
3. 持続可能な社会に貢献できるキャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な大学であるために多様な財源の確保等、地域との連携をより一層推進しながら地域創生を引き起こし、日本の活性化を引き起こす施設マネジメントを行う。 ・可能な限り既に保有している施設を有効活用することとし、スペースの適切な配分や「戦略的リノベーション」を中心とした老朽改善整備による長寿命化を図る。 ・カーボンニュートラルに向けて、施設のトリアージによる保有面積の削減や大規模改修時における複層ガラスや省エネ機器等の積極的導入による、キャンパスにおける消費エネルギーの抑制や、施設の屋上等の余剰スペースを再生可能エネルギーの発電スペースとして貸し出す等のエネルギーマネジメントを行う。また、徒歩や自転車による移動の推進等を通して、交通によるCO2排出量を抑制する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の削減 省エネ型機器への更新 太陽光発電の導入
上記以外にキャンパス整備の目標とすべき事項		

単位：万円

概算要求対象事項

第四期アクションプラン案（令和4年～9年度）	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	備考
<ul style="list-style-type: none"> 総合校舎B及びCの機能維持 点検結果等を踏まえたライフラインの更新 							新校舎240,000万円
<ul style="list-style-type: none"> 法学部研究棟の整備 総合校舎A・Sの既存講義室の法学部研究棟への転用 空き教室の見える化 プロジェクト研究スペースの充実に向けた財源確保のための全学スペースチャージ制度の検討 							
<ul style="list-style-type: none"> LGBTQに対応した「みんなのトイレ」の整備（8箇所） トイレの改修（和式便器⇒洋式便器5箇所） 屋外通路の段差等改善 	300	40	40	40	40		1年に2か所現状の多目的トイレに フィッティングボードとオストメイトを設置すると仮定 合計と単価 1か所当たりの単価
<ul style="list-style-type: none"> 交通施設（動線、駐輪場等）の整備 							
<ul style="list-style-type: none"> パブリックスペースの整備 							
<ul style="list-style-type: none"> 既存緑地の維持管理 	100	100	100	100	100	100	
<ul style="list-style-type: none"> LED照明器具・高効率空調機への更新（照明537台、空調30台） 	330	330	330	330	330	330	LED照明 537灯 × 3.2万円 =1,718.4万円→300万円/年 空調5台/年 × 25万円 =125万円/年
							500万円/年

VI 将来構想 ～イノベーション・コモンズ化に向けて～

共創拠点(イノベーション・コモンズ)について

共創が生まれる可能性を秘めた場所に、適切な共創拠点(イノベーション・コモンズ)を形成し、広島大学独自の共創拠点(イノベーション・コモンズ)を目指す。

将来構想について

大学を共創拠点(イノベーション・コモンズ)として形成し、課題の提示、研究開発や実証実験からの市場展開等、あらゆる場面で大学・行政・企業が連携を取り、カーボンニュートラルや地方創生を踏まえながらイノベーション・コモンズ化を目指す。

令和 4 年 4 月

国立大学法人広島大学

発行：施設マネジメント会議

